

広島市の伊達憲司さん

伊達さんは平成10年にリ

サイクリング「やりくりじょうず」を開業。16年から出張取りを始め、遺品整理の依頼が入り始めた。今年9月に「遺品整理士認定協会」（北海道千歳市）が設立されたことから、同協会の通信講座を受講し、試験に合格した。

遺品整理には「気持ち」が大切と語る伊達さん。通信講座で学ぶ中で、「採算で考えると見えない」とも「気持ち」で考えると見え

貝殻がたくさんあつた。女性の整理を受けた。女性の部屋には世界中で収集した貝殻がたくさんあつた。

「ゴミとして捨てるよりも、その人の生きた証しなので貝殻が好きな人に渡し、死者の思いを伝えられることが大切」と、インターネットオークションに出品した。

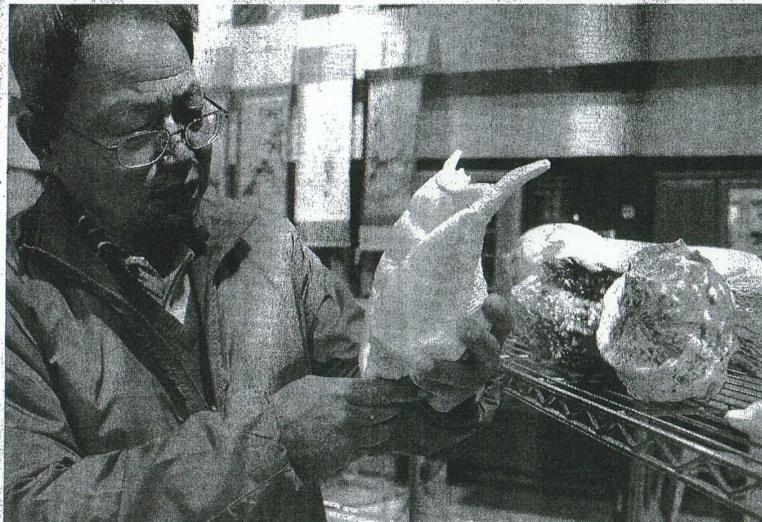
◆

「人にはそれぞれ物語がある。遺品整理を単に作業と捉えるか、そうでないかでずいぶん違う。死者や依頼主の気持ちをくんで仕事をすることが大事。若い社員にも伝えていきたい」と話した。

全国で2人目 遺品整理士

依頼主らの気持ち大切に

広島市安佐北区でリサイクルショップを営む伊達憲司さん（60）が全国で2人目となる「遺品整理士」の資格を取得した。孤立死の増加で、亡くなった人の遺品を整理する「遺品整理業」の需要が年々高まっており、「死者の思いをつなぐ方法はないか」と考えながら日々、数々の遺品と向き合っている。



引き受けた遺品の貝殻を見つめる伊達憲司さん＝広島市安佐北区

産経新聞

12|17 [土]

産業経済新聞(サンケイ)
THE SANKEI SHIMBUN
発行所 ©産業経済新聞大阪本社 2011
〒556-8660 大阪市浪速区湊町2-1-57
☎ 大阪(06)6633-1221(大代表)

平成23年(2011)日刊24793号
528。会(0123・42・0